
仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる
国連ハイレベル会合
参加レポート

「仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合」にて本市の取組みを発表するため、令和5年5月17日～20日の期間、郡仙台市長がアメリカ・ニューヨークを訪問しました。

本会合は、「仙台防災枠組2015-2030」の推進に取り組んでいる各国の代表が国連本部に集まり、これまでの進捗状況を確認し、一層の推進につなげるために開催された会合です。

令和5年4月下旬、国連総会議長より仙台市長に対して、パネリストとして会合に参加するよう要請があり、この度の参加となりました。

会合におけるパネリストとしての登壇のほか、ニューヨーク市内において、メモリアル施設の視察や経済分野での意見交換なども行ってきました。

本レポートでは、会合での発表や、視察の様子などをご報告します。

目次

1	全体概要	1
2	パネルセッション	
2-1	パネルセッションでの発信	2
2-2	パネルセッションでの市長の発表内容(英語)	3
2-3	パネルセッションでの市長の発表内容(和訳)	4
3	用務概要	
3-1	オープニングセグメント聴講	5
3-2	セッション聴講	5
3-3	スタートアップ支援企業訪問	6
3-4	9.11メモリアルミュージアム視察	7
3-5	ジェトロ・ニューヨーク事務所訪問	8
3-6	マンハッタン視察	8
3-7	ニューヨーク宮城県人会との会談	9
3-8	参考行程	9
4	市長所感	10
5	「仙台防災枠組推進にかかるトップセミナー」開催	10
6	関係機関からのメッセージ	11
7	現地での配布物	13
8	報道等	
8-1	マスコミによる報道	14
8-2	その他機関による発信	14
9	市民向け広報の実績	15

1 全体概要

「仙台防災枠組2015-2030」実施の進捗を評価し、さらなる実施の推進に向けた政治宣言をまとめるため、国連加盟国によるハイレベル会合が国連防災機関（UNDRR）の調整のもと開催されました。

1. 会 期：5月18日（木）～19日（金）
2. 会 場：国連本部（アメリカ・ニューヨーク）
3. 主 催：国連総会
4. 出席者：国連加盟国首脳・閣僚級等
5. 主な内容
各国における「仙台防災枠組」実施状況の中間評価に関する報告
パネルセッション（マルチステークホルダーパネル1～4）
「仙台防災枠組」の更なる実施の推進にかかる政治宣言の決議
【UN Web TVを通じて世界中にライブ配信】

▶ 「仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合」公式ウェブサイト（英語）
<https://sendaiframework-mtr.undrr.org/high-level-meeting-midterm-review-sendai-framework-disaster-risk-reduction-2015-2030>



仙台防災枠組2015-2030とは

2015年に仙台市で開催された「第3回国連防災世界会議」の成果文書として採択された国際的な防災の取組み指針で、2030年までの15年間、世界の国々が、この枠組に沿って防災・減災に取り組んでいくものです。

7つの具体的な目標と4つの優先行動が示されているほか、防災・減災の推進に向けては、国や自治体だけでなく、市民や学術機関、企業などの多様な主体（マルチステークホルダー）の参画、連携が重要であることなどが記されています。

▶ 「仙台防災枠組」推進に向けた取組み（防災環境都市・仙台ウェブサイト内）
<https://sendai-resilience.jp/sfdrr/>

2-1 パネルセッションでの発信(5月19日)

マルチステークホルダーパネル4 概要

1. 日 時：5月19日(金) 16時30分～17時45分
2. 会 場：国連本部 信託統治理事会室
3. テーマ：多様な主体における責任 - 防災の地域化
4. 登壇者：モデレーター1名(国際赤十字・赤新月社連盟)
パネリスト 郡仙台市長ほか3名(市民団体、障がい者団体等)
5. プログラム
オープニングビデオ放映
パネリストによる発表
聴講者(各国代表)によるコメント
まとめ

郡仙台市長がパネリストとして登壇し、地域レベルで災害を減らすために自治体ができること等をテーマに発表を行いました。

本市の復興や防災環境都市としての災害に強いまちづくりやひとづくり、「仙台防災枠組」の実施状況にかかる中間評価の取組みについて英語でスピーチを行いました。

本市が独自に実施した中間評価の結果から風水害リスクへの対策が課題であることが明らかとなったことや、枠組の進捗管理のための災害統計の重要性を受け、「防災・減災に終わりはない」というメッセージを伝え、2030年に向けて、ともに枠組の推進に取り組んでいくことを呼びかけました。

他のパネリストからは、市民団体や障がい者団体など様々な立場での枠組推進の取組みについて発表がありました。障がい者のニーズを汲み取ることでより災害リスクの低減につながることで、リスクや災害の最前線にいる女性の声が非常に重要であることなどが発信されました。

聴講している各国代表者からも、自国の取組みや課題について発言があり、ガーナからは、本市における防災分野でのメディアの役割や連携について関心が寄せられました。



▶ 「郡和子 仙台市長による発表」動画(防災環境都市・仙台ウェブサイト内)

<https://sendai-resilience.jp/sfdr/un.html>

2-2 パネルセッションでの市長発表内容(英語)

Thank you for being here today. I am Kohri Kazuko, the mayor of Sendai.
I appreciate you taking the time today to attend this panel.

The City of Sendai sustained serious damage from the Great East Japan Earthquake, which occurred on March 11, 2011.

I would like to express my deepest gratitude to people around the world who provided us their kind support.

As you are aware, in 2015, the third United Nations World Conference on Disaster Risk Reduction was held in Sendai, and the Sendai Framework was adopted here.

As a city which experienced such catastrophic damage and has continued pursuing reconstruction and disaster risk reduction initiatives, we conducted the Midterm Review of the Sendai Framework with the desire to help other cities with their own DRR. We collaborated with Tohoku University for this review.

As far as I am aware, Sendai's Midterm Review is the first local government-level evaluation of this sort. It is also a pioneer in being a joint project with a research institute.

DRR policies, implemented by the City and the citizens are based on the Priorities of Actions of the Sendai Framework.

In addition, the Tohoku University was tasked with assessing the contributions of these Priorities of Action on the implementation status of the Global Targets.

For instance, the first Priority of Action on "Understanding disaster risk" is incorporated into policies such as the use of memorial facilities like disaster ruins in school DRR education.

Meanwhile, the fourth Priority of Action is "Build Back Better", many of Sendai's reconstruction efforts from the Great East Japan Earthquake have incorporated this key concept.

As a result of the promotion of DRR initiatives that are based on the Priorities of Action, it can be concluded that the City is on track with the implementation of the Global Targets.

However, the increasing severity of storm and flood damages in recent years is also a growing concern.

Via conducting this evaluation, we were once again reminded of the importance of disaster statistics in managing progress for the Sendai Framework.

Additionally, feedback from citizens has been included in this Midterm Review.

Sendai Symposium for DRR, is one of the events that we have hosted annually since 2016.

This citizen participation type event provides an opportunity for various stakeholders including local organizations, research institutions, private sector, and NPOs to gather and exchange ideas.

Collaboration with research institutions and the private sector is also important to success. In the case of Sendai, initiatives such as promoting DRR technology known as "BOSAI-TECH", in which the city connects domestic and overseas companies around the world, is evaluated to have contributed to all targets of the framework.

For future initiatives as well, we would like to respect the various efforts of all groups involved.

As the efforts made so far have contributed to the promotion of the Sendai Framework and future direction has been confirmed, further measures will be implemented based on the recognition that DRR is a never-ending task.

Furthermore, it is significant that we have been able to identify detailed data items and whereabouts that are unique to local governments in this Midterm Review.

I hope other regions will also implement similar evaluation and analysis.

Let us collaborate together, and carry forward with the respective initiatives of the Sendai Framework into 2030. Thank you.

2-3 パネルセッションでの市長発表内容(和訳)

仙台市長の郡和子です。
本日はお時間をいただきありがとうございます。

2011年3月11日、東日本大震災において、巨大地震と津波により、本市は沿岸部を中心に大きな被害を受けました。この間、国内外の多くの皆様から暖かいご支援をいただいたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

また、2015年には、本市において「第3回国連防災世界会議」が開催され、「仙台防災枠組」が採択されました。

大きな被害を経験し、復興や防災に取り組んできた都市として、他の都市の防災に役立ちたいという思いで、この度「仙台防災枠組」中間評価を実施しました。仙台市と東北大学が共同で実施しました。

地方自治体レベルでは初の試みと伺っており、また、研究機関との共同事業である点も画期的であると考えております。

本市が市民の皆様とともに取り組んできた防災・減災施策を、「優先行動」になぞらえて整理しました。

また、「優先行動」がどのように「グローバルターゲット」の達成に貢献しているかについて、東北大学に評価いただきました。

例えば、優先行動の1「災害のリスクを理解し、共有すること」には、震災遺構などのメモリアル施設を活用した学校防災教育の取組みなどがあります。

「仙台防災枠組」における重要な考え方「ビルド・バック・ベター」が優先行動の4になります。本市の東日本大震災からの復興も、この考え方に合致するものが様々ございます。

「優先行動」に基づく取組みの推進により、「グローバルターゲット」は、順調に達成中とすることができます。

ただし、近年は風水害リスクの深刻化が懸念されるところです。

さらに、枠組の進捗管理のため、災害統計の重要性も再認識されました。

また、今回の中間評価には、市民の意見も取り入れました。

本市が、毎年開催している市民参加型イベント「仙台防災未来フォーラム」は、地域団体、研究機関、企業、NPOなどのステークホルダーが集い、想いを共有する場となっています。

また、研究機関や企業との連携も重要です。本市を介して、国内外の企業がつながり、防災技術を世界に共有・展開する取組み「BOSAI-TECH」などは、全てのターゲットに貢献するものとして評価されています。

今後の取組みにおいても、多様な主体の関わりを大切にしていきたいと考えております。

これまでの取組みが枠組の推進に寄与していることや、今後の方向性について確認できたことから、防災・減災に終わりは無いという認識のもと、更なる対策を進めてまいります。

さらに、今回、中間評価の取組みにおいて、自治体ならではの細かいデータの項目や所在を確認できたことには、大きな意味があると考えております。

他の地域においても、同様の評価分析に取り組まれることを期待しております。

2030年に向けて、ともに協力しあいながら、「仙台防災枠組」を進めてまいりましょう。ありがとうございました。

3-1 オープニングセグメント聴講(5月18日)

国連加盟国の代表が集まり開催されたオープニングセグメントを聴講しました。

災害が大幅に増加していることや、本会合が今後の行動計画にこれまでの教訓を盛り込む機会となることに触れ、「仙台防災枠組」の2030年までのさらなる推進に向けた「政治宣言」が採択されました。

途上国における防災への支援の重要性のほか、気候変動への備えや「持続可能な開発目標（SDGs）」「パリ協定」との連携等が含まれており、本市において防災・減災に取り組む際にも参考となる宣言です。



3-2 セッション聴講(5月18日)

ハイレベル会合の公式サイドイベントとして開催された「Risk Reduction Hub」のプログラムである、日本・インド共催（国際協力機構（JICA）運営協力）の「防災投資」をテーマとするセッションを聴講しました。

セッションには、中野英幸 内閣府大臣政務官や水鳥真美 国連事務総長特別代表（防災担当）兼国連防災機関長等が参加し、国家の役割や事前投資の重要性等について議論が行われました。



3-3 スタートアップ支援企業訪問(5月18日)

本市におけるスタートアップ支援の推進に向けて、スタートアップへの投資促進と起業家の支援等を行っている企業「Entrepreneurs Roundtable Accelerator (ERA)」を訪問し、意見交換を行いました。

はじめに、施設内のコワーキングスペースを見学しました。起業する側、サポートする側が自由にコミュニケーションを取り合うような、開放的な雰囲気でした。

ERAの代表からは、実施しているスタートアップ支援の手法等を伺いました。アメリカでは、実例のないサービスであっても、未来に向けた大きなビジョンがあるビジネスであれば、起業資金の獲得につながるような文化があるとのことでした。

また、実際に支援を受けてスタートアップを実現した若手起業家より、事業の内容や起業にかけた想い等をお話いただきました。

サプライチェーンシステムを提供している方、ヘルスケアサービスを提供している方、いずれも生活の中で課題に感じたことをきっかけに、AIを活用した事業を展開していました。独自のサービスで課題を解決し、社会に貢献していくという強い信念と、それを実現するパワーに触れることができました。



3-4 9.11メモリアルミュージアム視察(5月19日)

2001年に発生したアメリカ同時多発テロ事件の跡地に建てられた、9.11メモリアルミュージアムを訪問しました。

施設内は地下に向かって展開されており、建物の壁や柱、階段の一部が被害を受けたままの状態で展示されていました。

被害を受けた「物」だけでなく、映像や音声なども交えながら、当時の緊迫した報道、事件を知った人々の衝撃や想い、被害に遭われた方々との思い出なども伝える展示となっており、様々な視点で考えさせられる施設でした。

また、平日にもかかわらず、多くの方が引きも切らず訪れており、世界中で共有されるべき重大な出来事であったことを実感しました。

東日本大震災のような自然災害との違いはあるものの、一瞬で人々の命や生活が奪われることの恐ろしさは共通しており、そのような悲劇が繰り返されないよう、経験や教訓を次世代に伝えていくことの重要性を改めて感じることができました。



3-5 ジェトロ・ニューヨーク事務所訪問(5月17日)

スタートアップが盛んなニューヨークにおいて起業支援を行っているジェトロ・ニューヨーク事務所を訪問しました。

日本のスタートアップ企業が初期段階から海外で事業を展開できるよう、国や自治体とも連携をしながら、アメリカ国内企業とのつながりを作る等、様々な支援を行っているというお話を伺うことができ、本市におけるスタートアップ支援の強化に向けた意見交換ができました。



3-6 マンハッタン視察(5月18日)

マンハッタンの高架鉄道跡地を再開発した公園であるハイライン等を視察しました。

廃線となった鉄道の高架部分に緑地帯が設けられ、歩きながら緑を感じられるようになっており、大都市でありながら自然環境との融合が図られている空間でした。ハイラインの先には、デザイン性の高い展望施設（ベッセル）や劇場（ザ・シェッド）があり、文化との融合も感じられる都市空間となっていました。



3-7 ニューヨーク宮城県人会との会談(5月19日)

ニューヨーク宮城県人会の方々とお会いし、東日本大震災からの復興支援への感謝や国連での登壇の感想を交えながら、ニューヨークでの生活等、様々な話題で意見交換を行いました。

ご参加の皆様の職業やニューヨーク在住に至った経緯は様々でしたが、県人会としてのつながりを大切にされており、日本や仙台への想い等を伺うことができました。



3-8 参考行程

- 5月17日(水)
 - ・ ニューヨーク着
 - ・ ジェトロ・ニューヨーク事務所訪問
- 5月18日(木)
 - ・ スタートアップ支援企業Entrepreneurs Roundtable Accelerator (ERA) 訪問
 - ・ 国連ハイレベル会合 オープニングセグメント、セッション聴講
- 5月19日(金)
 - ・ 9.11メモリアルミュージアム視察
 - ・ マルチステークホルダーパネル4出席、発表
 - ・ ニューヨーク宮城県人会との意見交換
- 5月20日(土)
 - ・ ニューヨーク発

4 市長所感

はじめに、この度の国連ハイレベル会合への参加にあたり、国連防災機関（UNDRR）神戸事務所、内閣府、外務省、国際協力機構（JICA）の皆様にも、多大なるご協力をいただきました。この度の名誉ある機会をいただけたのも、国際防災関係機関の皆様にご指導、ご助言をいただきながら、市民の皆様とともに東日本大震災からの復興や、防災・減災に継続して取り組んできた結果であると感じております。また、東北大学災害科学国際研究所とは、ともに独自の中間評価に取り組むことができ、この度の発表の機会につながったほか、本市が国際防災に貢献できるひとつの強みにもなりました。改めて感謝申し上げます。

会合では、パネリストとして登壇し、本市の復興や防災環境都市としての災害に強いまちづくりやひとづくり、本市独自の枠組中間評価の実施について発表いたしました。

各国代表のほか、国際的に活動する市民団体、障がい者団体など、様々な参加者により「仙台防災枠組」の推進について意見が交わされました。防災・減災の取組みを促進するには、多様な主体の連携が重要であり、東日本大震災の経験と教訓、そしてそこから生み出された知見や技術を、広く国内外に発信していくことが、防災環境都市を標榜する、本市の重要な責務であると実感いたしました。

あわせて、9.11メモリアルミュージアムの訪問や、スタートアップ支援企業等との面談、ニューヨーク宮城県人会の方々との意見交換も行いました。それぞれに学ぶことがあり、今回の訪問での経験、そしてその成果を市民の皆様、多様なステークホルダーの皆様と共有し、災害に強いまちづくりをさらに進めてまいりたいと思います。

5 「仙台防災枠組推進にかかるトップセミナー」開催

国連ハイレベル会合への参加について職員間で共有を図り、後半期を迎える「仙台防災枠組」の更なる推進に全庁的に取り組むため、国際協力機構（JICA）防災分野特別顧問竹谷公男氏を講師に招き、勉強会を開催しました。

「仙台防災枠組」に込められた理念や地方自治体としての責務等について学び、理解を深めました。

1. 日時：7月12日（水）10時～11時
2. 会場：仙台市役所8階第一委員会室
3. 対象：市長、副市長、各局区長等職員 約50名
4. プログラム

「仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合」参加報告
国際協力機構（JICA）防災分野特別顧問 竹谷公男氏による講話



6 関係機関からのメッセージ

「仙台防災枠組」の推進や本市における防災・減災の取り組みの国際的な発信等、様々な場面でご指導、ご協力をいただいている国際防災関係機関の皆様より、メッセージを頂戴しました。

◆ 国連防災機関(UNDRR) 駐日代表 松岡 由季 氏 ◆

仙台防災枠組の3つのキーワードとなっているのが、「インクルーシブ(包摂)」、「レジリエンス(強靱性)」、「all of society engagement (社会全体の防災への関与)」です。

これは、東日本大震災を含む災害からの学びが国際的な防災議論に影響を与えた結果、仙台防災枠組に反映された観点です。

仙台市民の皆様はまさに社会全体の関与を掲げる仙台防災枠組実施の「担い手」として象徴的な皆様です。今回、国連ハイレベル会合で仙台市の取り組みを国際的に発信して頂き、UNDRRとしても感謝しております。また、仙台市はUNDRRが運営する「仙台防災枠組 ボランティア・コミットメント オンラインプラットフォーム (<https://sendaicommitments.undrr.org>)」にいくつもの取り組みを掲載している自治体の一つです。仙台市による自らの仙台防災枠組実施中間レビューも取り組みの一つとして掲載されています。

仙台市の皆様の取り組みに敬意を表し、エールを送らせて頂くとともに、国際的な共有・連携の継続を今後ともお願いしたいと存じます。

◆ 内閣府 政策統括官(防災担当付) 参事官(普及啓発・連携担当) 村上 威夫 氏 ◆

仙台市は、東日本大震災で大きな被害を受け、被災者に寄り添った復興支援など先進的な取組を行うとともに、各地の被災地に応援職員を派遣するなど、防災・復興の先進自治体として活躍されています。

防災に力を入れている自治体は他にも全国にたくさんありますが、その中でも仙台市は、国際的な情報発信にも積極的に取り組んでおられる数少ない自治体です。

災害大国日本の様々な経験や知見を世界に知ってもらおうと、災害対応の現場である自治体の取組を共有することはたいへん有意義であり、日本の国際発信力の強化に大きく貢献しています。

引き続き、仙台市が防災環境都市として益々発展され、その取組を世界に発信されることを期待します。

6 関係機関からのメッセージ

外務省 国際協力局 地球規模課題総括課長 松本 好一郎 氏

本件ハイレベル会合への、仙台市からの現地参加に感謝申し上げます。

「仙台防災枠組」でも示されているとおり、防災取組は中央政府の努力だけでは完璧にはなりません。より住民に近い地方自治体の取組も必須となります。

国際枠組にその名を冠する仙台市ご自身の防災分野での先進的な取組を国際社会に発信頂くことで、各国地方自治体の取組促進に繋がり、国際社会における防災取組や国際協力が推進されることを期待しております。

独立行政法人国際協力機構(JICA) 防災分野特別顧問
東北大学災害科学国際研究所 客員特任教授 竹谷 公男 氏

2015年に策定された国連防災仙台枠組は、人道イシューではなく開発イシューとして災害に対する各国の一義的責任を明示し、さらに社会活動により新たなリスクを作り出すことを防止すべきこと、経済被害を防止することが人命を守る事にもつながる将来への投資として実施すべきことである、など日本の防災思想を世界標準としたものです。

これにより同年合意されたSDGs、気候変動パリ協定の合意のベースを構築した画期的な内容となっています。その会議を仙台市がホストされ世界に“防災の聖地”としての名前が知れ渡ることとなりました。

また、仙台枠組の重要なターゲットの一つである地方防災計画の策定は地方自治体の重要な責務であり、国連本部の中間報告の場で仙台市が世界のあらゆる都市の先陣を切って仙台枠組の中間評価を発表されたことは、世界中の都市を刮目させる大きな影響力を持ち、単に国連防災会議をホストして国連文書の枠組み名に残った市としてではなく、名実ともに防災に注力し市民生活を守る地方自治体としての責任と覚悟を世界中に表明されたことであり、大変意義深いものでした。

7 現地での配布物

仙台市における防災・減災の取り組みを紹介するため、パンフレット等を配布しました。

○仙台市の取り組みパンフレット



○仙台市紹介カード

CITY OF SENDAI

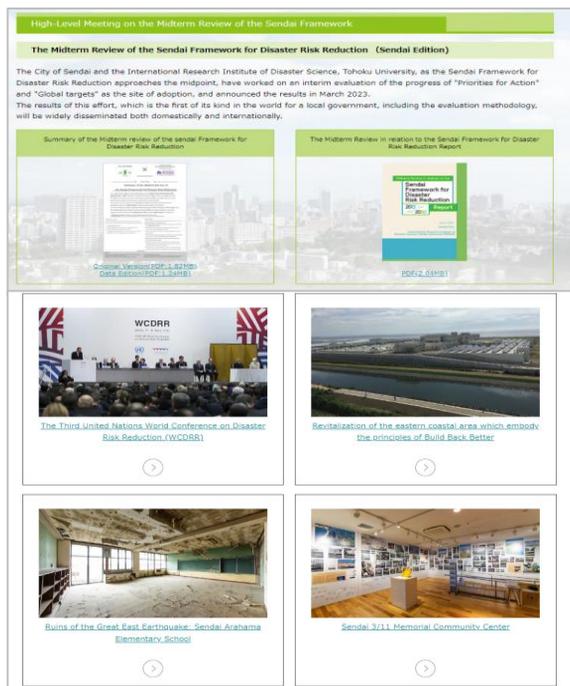
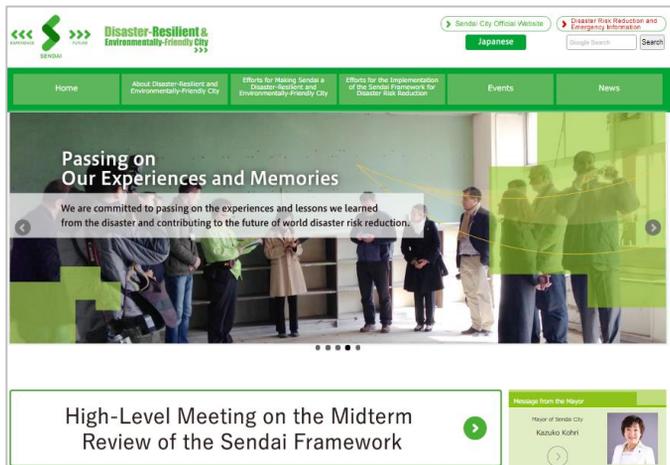
Disaster-Resilient & Environmentally-Friendly City

Visit our website

◆ The Midterm Review of the Sendai Framework for DRR [Sendai Edition]
◆ Sendai City's DRR Efforts

Contact us : mac001605@city.sendai.jp

ウェブサイトヘリンク



8-1 マスコミによる報道

事前報道

朝日新聞社
 河北新報社
 共同通信社
 khb東日本放送
 産経新聞
 tbc東北放送
 日本経済新聞社
 毎日新聞社
 読売新聞

事後報道

一般社団法人共同通信社
 NHK
 河北新報社
 khb東日本放送
 週刊NY生活
 tbc東北放送

河北新報
 令和5年4月21日朝刊 1面



8-2 その他機関による発信

機関名	媒体名
国連防災機関 (UNDRR)	Highlights
国連防災機関 (UNDRR)	Summary report
内閣府 (防災担当) 普及啓発・連携参事官室	広報誌ぼうさい107号

国連防災機関(UNDRR)
 仙台防災枠組ボランティア・コミットメント
 オンラインプラットフォームHighlight掲載

会合の様子は、UN Web TVを通じて世界中に
 ライブ配信されました。
 現在も、ウェブサイトからご覧いただけます。



▶ <https://media.un.org/en/asset/k16/k16xcaqhz5>

9 市民向け広報の実績

○市政だより



▲中間評価の結果や防災・減災の取り組みを報告した郡市長（写真右上演壇中央）

5月18日から2日間にわたり、米国・ニューヨーク市の国連本部で「仙台防災枠組2015-2030」の進捗状況の中間評価を話し合うハイレベル（首脳級）会合が開催され、郡市長が出席しました。「仙台防災枠組」は、平成27年に仙台市で開催された第3回国連防災世界会議で採択された、世界的な防災の取り組み指針で、災害による死亡者数や被災者数の削減など、2030年までに世界が目指す7つの目標を設定しています。初日の本会議では、途上国支援強化の重要性などを掲げた「取次宣言」が採択され、各国での取

組みの加速を確認しました。郡市長は、2日目に行われた分科会に登壇し、地方自治体としては初めてとなる中間評価を東北大学災害科学国際研究所と共同で実施したことを報告。震災遺構などを活用した防災教育を進めていることや、「仙台防災未来フォーラム」を毎年開催し、市民や企業と連携を深めていることなどを紹介し、「防災・減災に終わりはない。ともに協力し、2030年に向けて取り組みを進めていきたいと思います」と呼び掛けました。市では、今後も仙台防災枠組の採択都市として、防災・減災に向けた取り組みを推進していきます。

市政トピックス

「仙台防災枠組」の中間評価を報告―国連ハイレベル会合



▲アテンドをされた方に、仙台市の魅力を説明しました。

第45回 パンコク・ニューヨーク訪問編

本年度的、海外へ向けて仙台の魅力を発信する機会を多くいただいたこと、今回は、タイ・バンコクと、米国・ニューヨークに訪れた方々をお伝えします。

観光再生元年の盛り上げ
4月9日から5月3日にかけて、早期の交流人口の確保、拡大に向けて、タイの首都バンコクを訪問しました。仙台市では、観光振興のイベントや消費喚起のPRイベント「日本東北観光フェア」には多くのお客さまが訪れ、私たちの説明にも熱心な耳を傾けてくださいました。タイ国内における前日数日の高層ビルを建設したところ、また、タイ国境検問所は、仙台・バンコク間一定距離は、



早期開港を要請してまいりました。交通人口の拡大を目指す中で、定期便の運行は不可欠であり、日も早い再開に向け、具体的な協議を進めてまいります。

アフターコロナの時代となった今、さらなる経済活性化のためには海外との交流が重要だと認識されており、今後とも観光再生に向けて、東北一丸となって取り組んでいきます。



▲11モリアをニューヨーク市では、仙台の海岸とともにも、早稲への思いを強く感じました。

○仙台防災未来フォーラム Facebook

仙台防災未来フォーラム
2023/05/20

ニューヨークの国連本部で日本時間20日午前5時半頃開催された「仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合」マルチステークホルダーパネル4に郡仙台市長が登壇し、仙台市の防災の取り組みや仙台防災枠組の推進などについて発信しました。

○仙台市広報課 Facebook

仙台市

仙台市の防災の取り組みを世界に発信！

ニューヨークの国連本部で日本時間20日午前5時半頃開催された「仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合」のパネルセッションに郡市長が登壇し、東日本大震災の復興支援に感謝の言葉を述べるとともに、仙台市の防災の取り組みや、「仙台防災枠組」の推進などについて発信しました。

「仙台防災枠組」は、2015年に本市で行われた第3回国連防災世界会議で採択された国際的な防災の取り組み指針。今回の会合では、本市が独自に中間評価を実施したことや、震災遺構などのメモリアル施設を活用した防災教育などを例に本市の取り組みを紹介し、ともに協力し合いながら仙台防災枠組を推進することを呼びかけました。

仙台防災枠組の中間評価について詳しくは、防災環境都市・仙台ホームページ
<https://sendai-resilience.jp/>

○仙台市広報課 LINE

仙台市広報課
2023/05/22

仙台市の防災の取り組みを世界に発信！

ニューヨークの国連本部で日本時間20日午前5時半頃開催された「仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合」のパネルセッションに郡市長が登壇し、東日本大震災の復興支援に感謝の言葉を述べるとともに、仙台市の防災の取り組みや、「仙台防災枠組」の推進などについて発信しました。

「仙台防災枠組」は、2015年に本市で行われた第3回国連防災世界会議で採択された国際的な防災の取り組み指針。今回の会合では、本市が独自に中間評価を実施したことや、震災遺構などのメモリアル施設を活用した防災教育などを例に本市の取り組みを紹介し、ともに協力し合いながら仙台防災枠組を推進することを呼びかけました。

仙台防災枠組の中間評価について詳しくは、防災環境都市・仙台ホームページ
<https://sendai-resilience.jp/>

「防災環境都市・仙台」ホームページのご案内



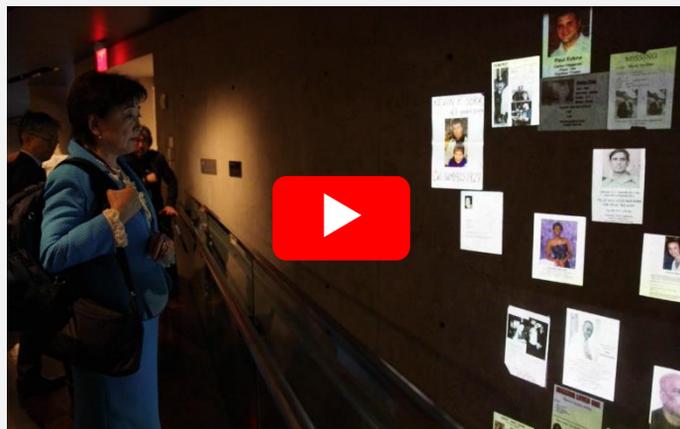
仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合の情報や動画は「防災環境都市・仙台」ウェブサイトにてご覧いただけます。



<https://sendai-resilience.jp/sfdrr/un.html>



仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合 郡和子仙台市長による発表



国連ハイレベル会合参加及びニューヨーク市内視察ダイジェスト動画



発行 仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室

住所 〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町3-7-1
TEL 022-214-8098
E-mail mac001605@city.sendai.jp
発行日 令和5年7月